

笑顔のひろば

vol. 48

2020年 冬号

川崎協同病院
広報誌

<http://www.kawasaki-kyodo.jp>



新型コロナ、院内感染の発生から収束まで 発熱患者を積極的に受け入れながら

今年4月、新型コロナウイルス感染症は急増し国内では感染爆発に近い状態となりました。発熱患者の受け入れ病院は足りなくなり、救急車の搬送困難事例が急増しました。その一方で、医療機関ではマスクや消毒液など医療物資が足りないといった厳しい状況のなか、この感染症への対応が求められてきました。

他病院から心のこもった色紙



川崎協同病院では、4月上旬には保健所や感染症専門病院の指導を受けながら、地域包括ケア病棟の一部を改造し、感染症対応病棟を立ち上げ、また外来では感染症対応室を作り、積極的に発熱患者を受け入れてきました。

しかし、4月中旬に入院した患者を発端に院内感染を生じ5月12日までの間、最初の感染者と同じ病棟にいた患者や退院後に施設で発症した人を含めて、患者17人、職員4人がPCR検査で陽性と確認されました。その後3週間を経た6月1日、院内感染は収束しました。

7月に再び感染

7月、新型コロナウイルス感染症と診断された患者の対応にあたった職員が、濃厚接触により感染し院内で感染が広がり、最終的に9人の職員、7人の患者の感染が確認されました。

このため7月1日から入退院と外来機能を一部制限するとともに、川崎市保健所の協力のもと対策をすすめました。7月11日を最後に新たな院内感染が4週間なかったことに加え、院内感染が発生した病棟の入院患者と病棟職員のPCR検査を複数回実施した結果、いずれも陰性を確認したため8月8日、院内感染は収束したものと判断しました。

責任を痛感、さらなる感染防御へ

川崎協同病院 院長 田中久善

コロナ禍とはいえ、当院で新型コロナウイルス感染症が発生し、またその感染が広がってしまったことは、痛恨の極みです。2回の新型コロナウイルス感染症の院内感染を通して、多くの罹患者を生じさせたこと、また新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定を受ける医療機関に速やかに受け入れていただきましたが、残念ながら亡くなられた患者もあり、誠に心が痛みます。

今後、職員一人ひとりが医療者としての責任感を一層高め、感染防御の知識・手技を向上させていくことが大変重要と考えております。院内の感染対策基準は、事態の局面に応じて臨機応変に変更してまいりました。刻々と変わる基準をその都度、現場職員まで浸透させることの難しさはありますが、現場管理者への通達、あるいは日ごろおこなう病棟での学習会などを通し、基準への理解を深め、徹底し、職員一人ひとりの行動変容に繋げる努力を続ける所存です。



あつい支援に励まされ

コロナ禍で、日本中で感染防護具が不足するなか、川崎協同病院に対して企業あるいは個人から、マスクやガウンなど数多くの支援物資が届けられました。新型コロナウイルスに立ち向かうためには、どれも必要な物資であり、病院関係者一同これらの支援に大変励まされ、勇気づけられました。

同時に、感謝の気持ちを胸に深く刻み、これからも地域医療の最前線で、何よりも患者のための医療を提供できるよう尽力していくことを誓いました。

激励メッセージが書かれた短冊



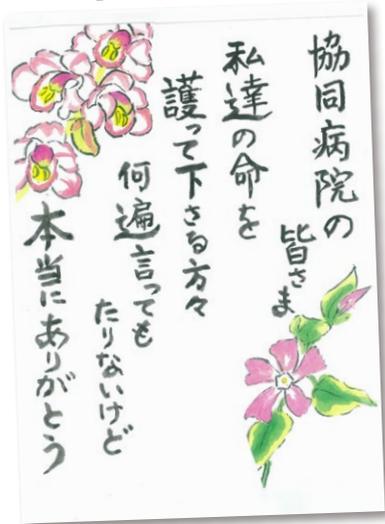
地域の福祉事業所の人たちから寄せられた応援の紙人形



届いた手作りマスクの数々



思いを託した絵手紙も



大きな布一面に張り付けられた応援の言葉



トピックス TOPICS

タブレット端末で「オンライン面会」 患者も家族も笑顔に

新型コロナウイルス感染症対策のため、川崎協同病院では今年3月から面会は原則禁止にしています。そこで少しでも、入院中の患者さんとその家族らが、面会に近い形でコミュニケーションをとれるようにと、当院では4月からタブレット端末を使ってオンライン面会を行っています。

タブレット端末やスマートフォンを持っている人は自宅で、持っていない人は来院してもらい当院のタブレット端末で面会ができるようになっていきます。時間は、平日（土日祝日は不可）の午後2時、3時、4時（1日3枠）から15分以内で、事前に、また1回の面会ごとに予約が必要で、利用は週1回程度に限られます。

「しばらく会えてなくて心配だったが、ご飯を食べているのが見られてよかった」、「いつもはあまり目を開けないのが、声掛けに目をパッチリ開け笑顔を見せ、その後リ



ベッドから家族とオンラインで面会

ハビリをがんばってくれた」、「徐々に会うと涙を流して喜んでくれた」など、入院中の患者さんのようすがわかってよかったといった声がきかれました。

一方で、「少しでもいいから直接話がしたい、顔が見たい」といった切実な声もきかれます。一刻も早くコロナが終息してみなさんが直接お会いできる日が来ることを関係者も切望しています。

予約は川崎協同病院 医事課（044-299-4781）まで。
*主治医の判断により面会を断らせていただくこともあります。

私が担当します！

本人らしく健康的で充実した生活を

私たち退院支援看護師は、退院する患者さんのなかで今後医療ケアを必要とする人や、病気や障害により、入院前と生活状況に大幅な変化が見込まれる人のお手伝いをします。

退院した人が病気や障害を抱えながらも今後の人生を生きる上でいかに本人らしく健康的で充実した生活ができるかを大切にしたいと考え、日々検討を重ねながら仕事にあたっています。



患者サポートセンター 入退院支援課
退院支援看護師
しょうじ あい せい のりこ
庄司 愛 成 紀子

退院支援看護師として活動をはじめ約1年が経過しました。これまで長い間リハビリ病棟で勤務してきた経験から、退院した人の療養を生活の視点からサポートできるよう院内外の人たちと連携をとっていきたいと思います。介護指導なども病棟やリハビリ担当者と一緒に、課題を共有してより患者さんや家族の不安や負担を軽減できるよう目指していきたいです。

庄司 愛

5月から入退院支援課で退院支援看護師として活動することとなりました。長年の病棟勤務、訪問看護師としての経験から、病院目線・在宅目線での退院支援ができることが強みです。患者さんの置かれる状況を的確に見極め、在宅での支援体制を整えていくために本人・家族・関係者間で連携していきたいです。

成 紀子

生協歯科クリニック～いつまでもおいしく食べ続けられる“健口”づくり

生協歯科クリニックは1999年に開設し、今年21年目となります。「誰でも、いつでも、どこでも安心して歯科医療が受けられるように」と、医療生活協同組合員と地域住民の声により開設しました。一般歯科、小児歯科をはじめ、開設当初から訪問歯科診療をおこなっています。

現在スタッフは、歯科医師が非常勤医含めて8人（常勤医師4人、非常勤医師4人）、歯科衛生士が12人います。ユニット数は8ユニットの中規模の歯科クリニックです。診療は、月曜日から土曜日までの午前・午後と火曜日・木曜日は夜間診療も行っています。

食べるということに主眼を置いて

中規模の歯科クリニックとしては、歯科衛生士は比較的多く配置しています。これまで虫歯や歯周病の治療、入れ歯の作成と管理を主としていましたが、最近はお口の健康が全身疾患に影響すると言われており、口腔機能低下症や摂食嚥下機能の検査を行っています。歯科は予防を保険でできる分野です。口の健康を保つために歯周病等の定期管理を重視し、歯科医師のチェックのもと歯科衛生士が、メンテナンス（検査や掃除）を行うとともに、口腔内の写真を撮って状態の変化をわかるようにしています。摂食嚥下や食べることに目を向け、いつまでもおいしく食べ続けられる“健口”づくりに力を入れています。

在宅でも歯の治療は可能

訪問歯科診療は、今でこそ求められています。生協歯科クリニックの開設当時はまだ少なく、在宅医療を受けている人が歯科にかかれるように取り組みはじめました。現在の管理数は100人弱ですが、車2台を使って、午前も午後も訪問歯科診療を行えるよう、管理数は当面150人が目標です。

高齢になり外出の機会が減ると食べるのが大きな楽しみになります。在宅医療を受けている人の家族も毎日口の手入れをしていると思われませんが、月に1回でもブ



かわいらしい2台の車で歯科往診にまわります



桜本商店街のなかにあるクリニック



口の手が入ることで、口の中をより良い状態に保つことができます。いつまでもおいしく食べるために、在宅での歯科治療や衛生士によるプロフェッショナルなメンテナンスをすすめています。

バリアフリーで障害者にもやさしく

生協歯科クリニックは、障害者歯科学会の臨床研修施設となっていて、定期的に障害者歯科を専門の医師が診療をしています。また、設備もバリアフリー設計で、トイレは車いすでゆったり利用できる広さになっています。移動しやすいように回転機能があるユニットが2台あり、移乗が難しい人は車いすのまま診療を受けることが可能です。無料送迎も月・水・金に実施し、少しでも外出する機会が増えるようにしています。

歯科はもともと感染対策に力を入れている分野ですが、今回のコロナ禍で、再度感染対策を見直し、最新の感染対策を取り入れて、万全の対策をとり診療しています。

生協歯科クリニック

〒210-0833 川崎市川崎区桜本 2-1-22

TEL 044-277-4618

<https://www.haisha-kawasaki.com>

